

【クレーム情報】

衣類害虫による食害

クリーニング総合研究所では、衣類害虫による食害事故の鑑定品を季節を問わず受けています。衣類害虫の食害によるトラブルを回避するためには、衣類を返却する際の情報提供が有効な手段になります。今回は、クリーニングによって衣類害虫による食害が明瞭になった事故事例を紹介いたします。

■事故の状態

袖や衿の一部で毛羽がなくなり、基布が露出している。

段階で、衣類害虫による食害を受けないよう防虫剤等を適正に使用して対応することが基本となる。

な衣類や時期などについて注意を喚起することも有効な対策になる。

■原因

衣類害虫による食害を受けて起毛織物の毛羽のみが消失し、基布が露出したもの。洗浄前の検品では特に目立った異常は認められなかったとのことであり、洗浄により食害を受けていた毛羽が脱落した可能性も推測される。

原因が衣類害虫の食害であることが分かっても、食害を受けた時期や場所を特定することはできない。クリーニング前に食害を受けていても、その状態が確認できず、洗浄後に明瞭になる場合もある。このためクリーニング店は、事故原因がクリーニング処理によるものと利用者から誤認されないように対応することが最も需要となる。

■衣類害虫

繊維を食害する虫の主体は、ヒメマルカツオブシムシ、ヒメカツオブシムシ、イガ、コイガの4種類の幼虫。いずれも、ケラチンと呼ばれるタンパク質を分解する能力を持っているため、繊維そのものを栄養源として生育することができ、羊毛、毛皮、皮革などを食害する。

原因が衣類害虫による食害であることは、繊維の切断面に特有の形状が残っていることから判断できる（顕微鏡写真）。

なお、衣類害虫による食害には、毛羽のみが消失するものや穴あき、キズ状になるものなど様々な形状がある。

■事故の防止対策

まずは、利用者が衣類を長期保管する

品物を受け付けてから返却するまでの間、何ら問題なく必要な処理を完了したことを証明するために、受付時および返却時に異常がないこと（あるいは異常があること）を相互確認すること、また、処理中に異常が生じた場合には、速やかに利用者へ報告し、必要な対応をとることなどの重要性は常に指摘されるところである。






イガとコイガは、気温の比較的高い初夏から秋にかけての時期に幼虫が活発に活動し、繊維を食害する。幼虫は巣を作り何匹も固まっていることが多く、成虫は小さな白い蛾になるので比較的発見しやすい。ヒメマルカツオブシムシとヒメカツオブシムシは夏から翌年の春にかけて幼虫が長期活動するが、イガのように目立たずに散らばっているため、知らない間に食害を受けているケースが多い。



写真1 コート



写真2 毛羽のみが消失し、基布が露出している

- 品名…コート
- 素材…アンゴラ64%、毛36%
- 取扱い絵表示…    
- 処理方法…石油系溶剤によるドライクリーニング、タンブラー乾燥、スチーム仕上



顕微鏡写真
衣類害虫の食害に特有の形状が確認できる